

哀色果あけ卒去さす人怨る憂ことありぞとも。知く尾張の河器
 所み。今天や違ひ此人も多。聖天や便宜も何ぞあんと。咱の齋よあね
 ども。愁患を冷らに幼女を惹くむる小月超て待甲斐もなき都乃
 考耗あき怖ら僕情の妻らむふりのあえん。那中れ遠まれ
 付後く。於の安否訪むやと二歳の女子を昇抱き。脚辛トて登りく
 見え。嗟あどさあ死彼卿の逝去さむひて。今天もや初忌日墓
 所よ。桃李紅白を雜て故と捨もある冷者の艱さ難さ。あやうふ
 洞も交りしむ。咽堪て血を吐ちり。偶歸洛の期を後ゆて。嬉しと
 思ふ。詮もあふ早世しむふく。てさよ何は憐へん。母子が身のうへ登
 の燈秋の扇。それさ便いあるりの。残別く不便。這娘が果報つる。え
 緯ふと樓抱。つるぬ悲嘆ふ伏沈む。埋せめて哀さるり。朝て果づき

憂あらねば。漸く此苦所ふ帰らぬれども。女の胸の丈あて。悲哀積る病
 とる。程さ疾中心。黄泉の街の鬼とあり。果るを父の次を文洞と共ふ。残
 抱み。是ぞ養ひ孫ハ養ひ。養ひを乳して。一あ年を過せ。世の理の生
 者必滅。老病命を債り来て。次を夫も亦耳順の秋。茶毘の烟小終を取る
 幼稚の女子が憑きもあたせ。叔父五郎助が憐みあひ。名をば於仲と称る
 しく。咱房小乎を安つるを。媒物結する人ありて。於仲女十八歳の夏
 此未。木下弥助が妻とくしてけり。是享禄四年四月のことありとぞ

日吉丸 誕生於仲觀奇瑞 附 神童生長

陰陽和しく。あふく。後小雨澤降り。夫婦和してあふく。後又家
 道成ると木下弥助昌吉ハ於仲の方を娶てより。好合こと。膠膠の如く
 比目鴛鴦もあふをさぶしが。其驗もあま見え。妊娠形の如くふしく。